

東京都リハビリテーション病院

リハフォーラム

第 19 号
平成 22 年新年度号

(発行) 東京都リハビリテーション病院
医療福祉連携室
〒131-0034 東京都墨田区堤通 2-14-1
TEL: 03-3616-8600
FAX: 03-3616-8699
<http://www.tokyo-reha.jp>



平成 22 年度新年度のご挨拶 東京都リハビリテーション病院 院長 林 泰史

平成 22 年度が始まりました。今年度は東京都リハビリテーション病院が設立されて 20 年間の経過した節目の年度に当たります。今年度も 20 年間の歴史を踏まえて東京都リハビリテーション病院には恒常的な歩みを進めるという選択肢もあるでしょうが、節目の年であるからこそ、さらに高揚した病院にするか否かの分かれ道であると捉えました。東京都リハビリテーション病院が東京都のリハビリテーション医療の中核的病院であり、また牽引車としての役割を保持しつつも、改定される医療制度、進歩する医学、変化する疾患・患者様の期待に応えるため、いま自らをどのように変えられるかが問われています。このタイミングに東京都リハビリテーション病院と病院の管理者である東京都医師会、設置者である東京都が協議して作成した病院経営改善計画に沿って病院機能の充実と経営の効率化を達成していく所存です。計画では、密度の濃い回復期リハビリテーション実施のために認められた大幅な療法士増で患者様への訓練時間増、土曜・休日訓練の実施、入院期間短縮な

どを実現しなければなりません。また、計画通りに亜急性期病室の設置や病床利用率の向上、事務作業の改善、地域との連携強化などにも取り組めます。

5 年前から地域医療・福祉関連機関の方々とは病院での講演会、見学会、意見交換会などを通して地域連携を深めて来ましたが、昨年はすみだ医師会開催の病院・診療所連携の会に多くの医師が参加することで連携を強くして行きたいと考えています。また、病院では地域の医師の先生方やコ・メディカル、区民の方々を対象にしたセミナー、講演会、講習会を数多く実施していますが、今後は可能な限り病院で得た生データを披露することにより、病院を理解して戴き、活用して頂き易くしようと考えています。このように、新年度に当たり東京都リハビリテーション病院は病院機能を高揚させ、そして地域の皆様方との距離を縮めるよう努力しますので、よろしくご理解・ご協力のほどをお願い申し上げます。

2010年4月吉日

東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方々が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。

ボランティア活動紹介

リハビリで疲れた身体と心を少しでもリラックスできたらと思い、
当院では様々なボランティアの方に来ていただいています。

NPO法人青森民謡協会の方による民謡と踊り。東北なまりも時々入り、皆さん故郷を懐かしんでいました。



NYMC（ニューヨーク メンズ合唱団）方によるキャロリング。各病棟と1階ホールで歌っていただきました。
歌って踊れる楽しい合唱団です。



落語会。笑いは免疫力を高め、笑う時は横隔膜や腹筋、表情筋などの筋肉も使います。爆笑をするまでとはいきませんでした。が楽しいひと時でした。



その他、フラダンスや岩倉高等学校吹奏楽部の方による演奏会、元SKDの方による歌、手芸や写真展示など多彩なボランティア活動をお受けしています。

ネイルケア。きれいになると患者様の表情がとても明るくなりました。

ロコモティブシンドローム研究

東京都リハビリテーション病院 院長 林 泰史

東京都リハビリテーション病院では急性期後の患者様に的確な訓練をしていきいき生活を取り戻して戴くほか、区民のいきいき生活支援のため墨田区とすみだ医師会との協働による墨田区在宅リハビリテーション支援事業のお手伝いをしています。一方、病院内では自動車運転継続への支援、意思を脳波で捉えて機能回復を図る手法等を研究しています。

全国で生活機能を低下させているのは約360万人のうち約300万人が高齢者、そのうち約40%は骨折・関節症・衰弱・脊髄損傷など運動器障害が原因で生活機能を低下させていることが分かっています。脳卒中よりも多い運動器障害による身体機能の低下状態でも軽度な運動器症候群(ロコモティブシンドローム)について、当院では整形外科・リウマチ科の丹野亮院長を中心とした研究グループが墨田区民の実態を調べて対応方法について研究しています。調査の結果、平均71歳の高齢女性111人中ロコモティブシンドロームに該当した52人はメンタルな健康感や目で注意深く探索する能力を低下させていることが分かりました。ロコモティブシンドロームのやや進行した運動器不安定症患者72名の調査では易転倒性にビタミンD欠乏が関与していると判明、加齢に伴う四肢機能の低下へのリハビリテーションには精神面・栄養面など多角的に取り組んでいく必要性を痛感した次第です。

墨田区の町内会で活躍中の高齢者調査

ロコモティブ症候群とは要介護状態になる危険性の高い運動器障害

- ロコモ症候群:①階段は手すり必要、②片足立ちで靴下はけない、③家の中で滑りやすい、④青信号で横断歩道を渡りきれない、⑤15分間歩き続けられない、のどれかに該当
- 墨田区内の町内会会員に...町内会館に医師、看護師などが出向き1回約10人ずつ自己記述調査
- 調査した高齢者111例中52人(47%)が該当。ロコモ該当者には精神面での健康観や視覚による探索能力の向上が必要



高次脳機能障害特別訓練プログラム ～試行的実施から～

地域リハビリテーション科 相談員 西原大助

2009年秋、医師、PT、OT、ST、Psy、MSW、外来Nsさらには事務も加わりオールスターキャストで高次脳機能障害者の特別訓練プログラムを試行的に始動致しました。開始に至った背景には、柳原副院長を中心に、各部門の熱心な担当者による委員会での話し合いや、勉強会などの積み上げから、リハビリ病院の先駆的な取り組みの一つとして始める事になりました。

訓練の対象者は、当院外来担当の主治医と担当の療法士の協力のもと、スタッフが予め推薦したメンバーの中から、特別訓練プログラムに参加意思のある患者様、ご家族に集まって頂きました。

プログラムの概要は、半年(10回)1クール、現在8名のグループで行っており、午前中は患者様と各専門職とで、調理訓練やオリエンテーリングなど様々な訓練メニューを実施。集団の中での個人の障害の特徴や、新たな一面が見受けられることがあります。一方、ご家族は、MSWとの相談会や近況報告などの情報交換を行い、悩みを共有できる時間として貴重な集いになっています。午後は、社会生活力支援訓練(Sympho:シンフォ)と称し、患者様

の目標や取り組んでみたいと思っていること等を実現するために、参加者全員で意見交換を行っています。ルールはポジティブな意見である事。流れは毎回患者様の一人が主役になり、自分の障害の説明、これからやってみたい事を発表して頂き、主役以外の患者様も自分なりの意見を発言して頂きます。そして、主役は挙げた意見からすぐに明日から出来そうな事を選択し実践してみるなど、グループでの効果を十分に発揮した訓練内容になっています。

グループ訓練の立ち上げは、スタッフにも良い風をもたらしてくれているように感じます。今まで当院の高次脳機能障害者の支援について各部署が集まり話し合う機会がない中で、お互いの考えや、認識を改めて確認できる良い機会になっているように感じます。

「高次脳機能障害特別訓練プログラム」は、新たな取り組みであり、まだまだ未完成な部分もありますが、今後も高次脳機能障害のリハビリテーションについて追及し、多くの患者様・ご家族を支援する病院の役割として各専門職同士で協力し、更なる努力をしていきたいと考えます。



リハビリテーション部言語療法担当は、現在常勤5名、非常勤4名（うち土曜のみ勤務1名）の言語聴覚士で臨床業務に当たっています。男性職員は1名で、女性の多い部門です。

訓練の対象は、ことばの表出や理解が難しくなる失語症、発音や発声が難しくなる構音障害、食べ物や飲み物の飲み込みが難しくなる嚥下障害など幅広く、言語療法の件数も年々増えています。言語室での訓練だけでなく、食事の際に病棟で嚥

下訓練を行ったりします。訓練は個別訓練が基本ですが、会話の機会を広げるためにグループ訓練も行っています。また、コミュニケーション障害は、患者様自身の機能や能力の回復だけでなく、周囲の人が症状を正しく理解し適切に接することも重要です。そのため家族指導にも力を入れています。1.5カ月に1回程度、失語症患者様のご家族を対象に失語症家族懇親会を開催しており、ご家族同士の交流の場にもなっています。

患者様は回復期病棟入院中の方が多くですが、外来での訓練も行っています。身体の麻痺のない言語障害のみの患者様も多く、失語症や高次脳機能障害の回復が復職・復学の可否を左右することも少なくありません。長期に関わらなくてはならない患者様が多いことも、言語療法部門の特徴です。

研修会開催案内

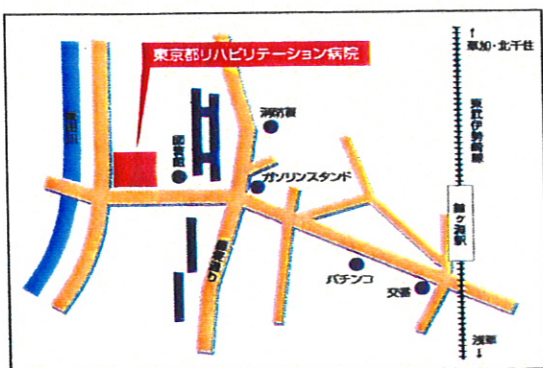
昨年度開催し大変多くの方々にご参加頂いた、「摂食・嚥下リハビリテーション研修会」を本年度も開催する運びとなりました。各分野の専門家からの講義と実習を織り交ぜた無料の講習会ですので、皆様奮ってご参加下さい。詳細は次号でお知らせ致します。

平成22年 摂食嚥下リハビリテーション研修会（初級編）

日時：10月23日（土） 場所：3階大会議室

平成22年 摂食嚥下リハビリテーション研修会（経験者編）

日時：11月7日（日） 場所：3階大会議室



東京都リハビリテーション病院 交通案内

- （電車）東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅 下車徒歩7分
 - （バス）両国から都営バス「東京都リハビリテーション病院（路線番号：墨38）」行き（約30分）終点下車
 - （お車）首都高速六号線堤通ランプ下
- 本誌に関しますメールでのお問い合わせやご意見は、下記アドレスまでお寄せ下さい。

renkei@tokyo-reha.jp

東京都リハビリテーション病院は東京都の指定管理者制度に基づき（社）東京都医師会が運営する病院です。